

大阪城

2023

6/29

(木)

1436号

金港海
西成分會

2247
6647-
4947

沖繩は6/25(日)梅雨が明け奄美地方も6/26(月)に明け、梅雨前線は北上してきている。関西は週末から来週にかけて雨になるようだ。

気温も30度を超えてきて、雨とともに夏目がやってくる。熱中症にもおなえ、注意していただきたいものです。自然の激しい変化とともに、時の流れも速い。7月8月と2ヶ月は厳しく、熱さの自然の戦いになる。7月は安倍元首相が死んでから一年になる。政治世界も流動し、安倍派も後をたれが継ぐのか決まらず、いすれ分散していくのだろう。

政治権力も、この夏、内閣や自民党役員を入れかえ、改選を發表するようだ。安倍色を脱して、岸田流にしようにはしているのだらう。岸田体制に再編し、秋には臨時国会として、年内には総選挙だろう……と予想されている。野党がまだ、自分の治せや本領發揮ができていないので、未来はホーとしているが、自民と公明の間にも、違っど対立が生れきてきている。地球の地殻変動のようなもので、ユートピアではどうなるものでもなく、時間の流れの中で、分断と別れはやってくる。アメリカ政治は血と涙と流れ、反吐を吐きながら進むんでいるが、日本も無縁ではありえないだろう。

万博まであと2年…パビリオン建設がピンチ！

資材高騰・人手不足だと“妥協”でスケールダウンも

万博のパビリオンの建設を担うことで世界に技術力をアピールできるなどメリットの方が大きいように思えるんですがそうではないということでしょうか？【経済・万博担当 沖田菜緒記者】「大型パビリオンはデザインが複雑で費用がかかる上に資材が高騰しています。設計に時間もかかるし、資材が高騰している中で、発注額でできるかと言われると難しいんです。さらに建設会社は万博以外にも仕事を抱えているので大量の職人が確保できるのかという課題もあります。さらに、夢洲では多くの国が一斉に工事を始めるのでそれぞれ段階に必要な職人の取り合いになるという状態も予想され、建設会社は二の足を踏んでいる状況…田菜緒記者】「最終的には各国とも、どこかの建設会社と契約することになるかと思いますが、まさに今、各国も残り時間との戦いの中で「妥協点」を探っている状況です。ただ、さまざまな問題点を考えると…万博の目玉であるパビリオンが当初の計画より“スケールダウン”してしまうケースが続出する可能性も考えられます」

西成労働福祉センター調べ	5月の求人数	対前月増減比	対前年増減比
現金(日払い)	11,984	9.6%	-4.5%
契約(延べ数)	12,010	40.0%	-6.6%
高齢者清掃ほか	4,630	0.5%	-5.0%

財政面で余裕のあったといえる「ドバイ万博」の次に実施される形の「大阪・関西万博」…厳しい面は多々ありますが、なんとか来場者が“満足”いくよう、各方面の知恵と努力で実現してほしいところです。(関西テレビ「ニュース・リーダー」)

最近ネットニュースで「人手不足」にからめて「西成」が話題にされることがよくあります。期待感があるようです。